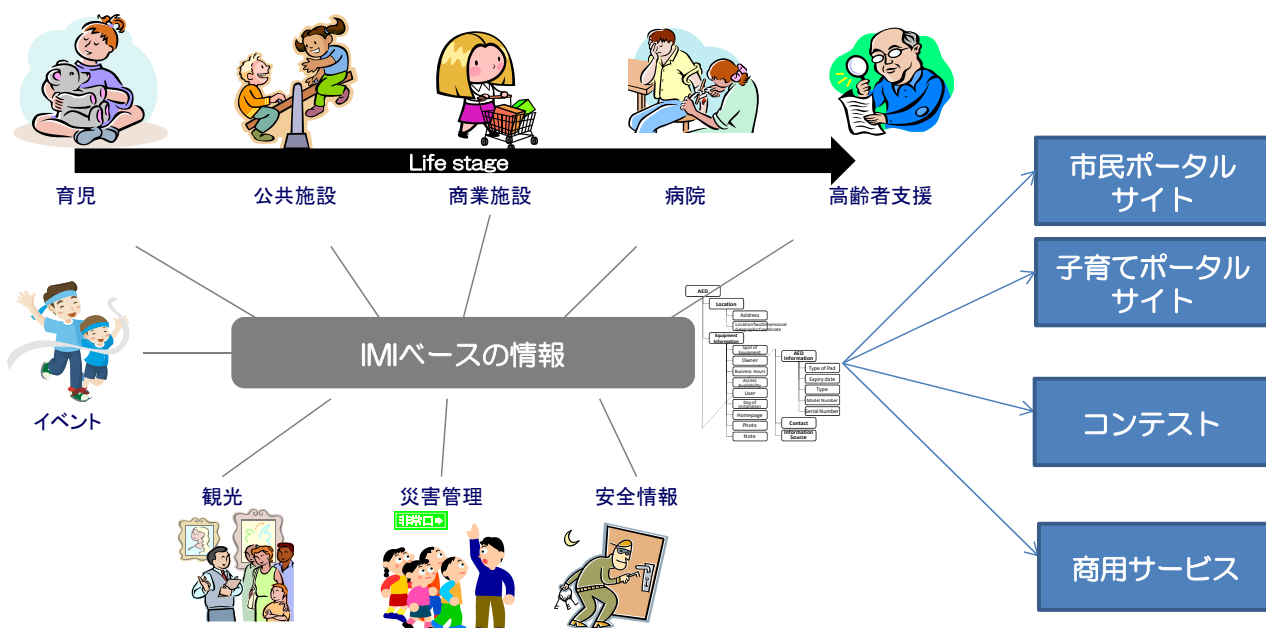


今後の推進

自治体IMIプロジェクト

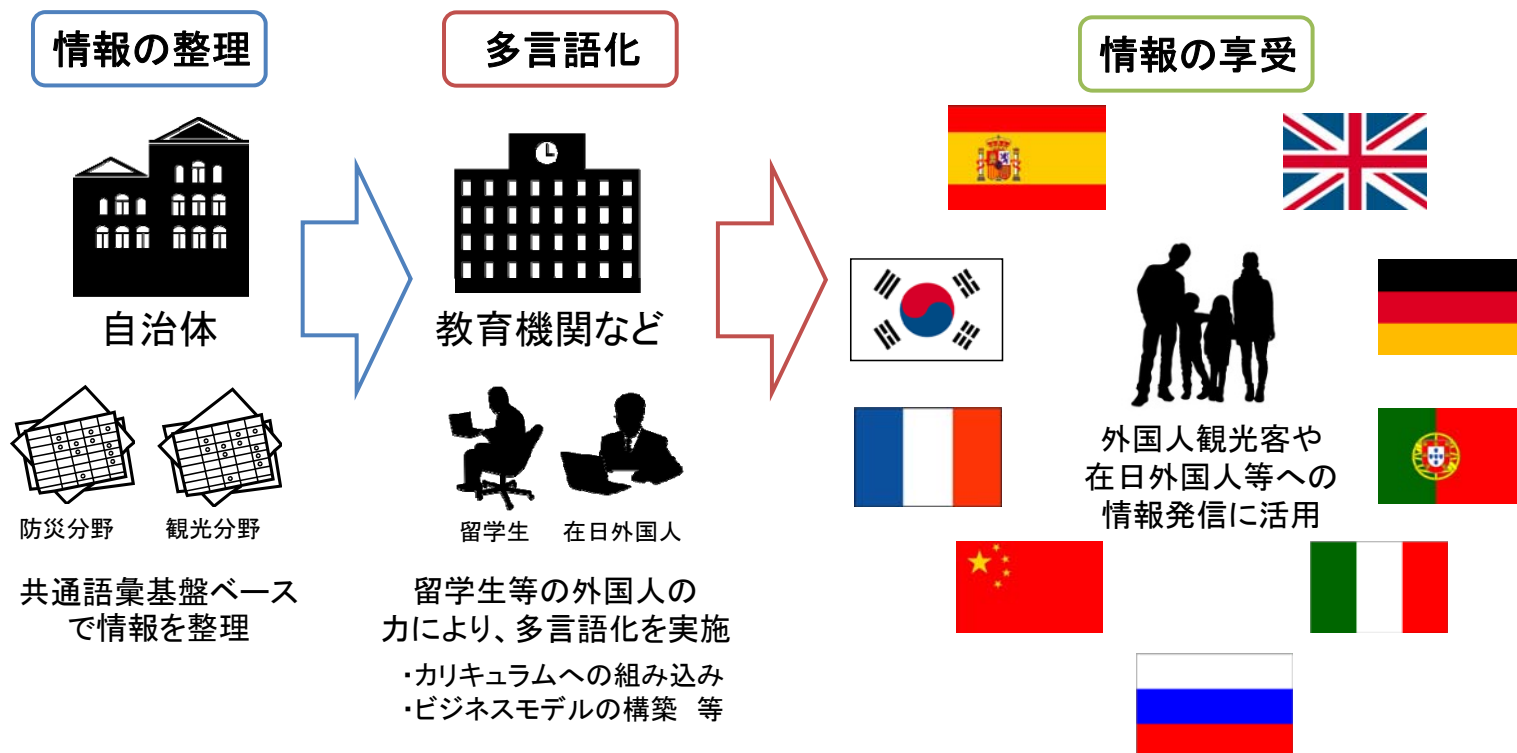
■ 様々な分野のIMIの語彙をフルにインプリして、その検証を年内に行う。

- | | |
|---------------|------------|
| ➢ 経済産業省 | IMIコンセプト提供 |
| ➢ 情報処理推進機構 | ツール提供 |
| ➢ 自治体 | データ提供 |
| ➢ 市民&シビックハッカー | データ活用 |



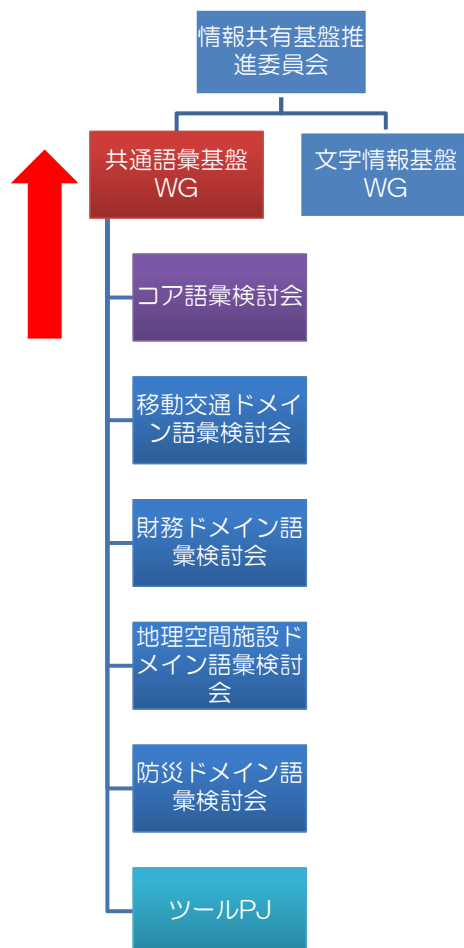
■ 実運用モデルをめざし、データ構造の検証を行う。

- 自治体が保有するデータを共通語彙基盤ベースに変換した後、自らの地域の教育機関の人的資源等を活用し、多言語化を行うモデルを構築する。

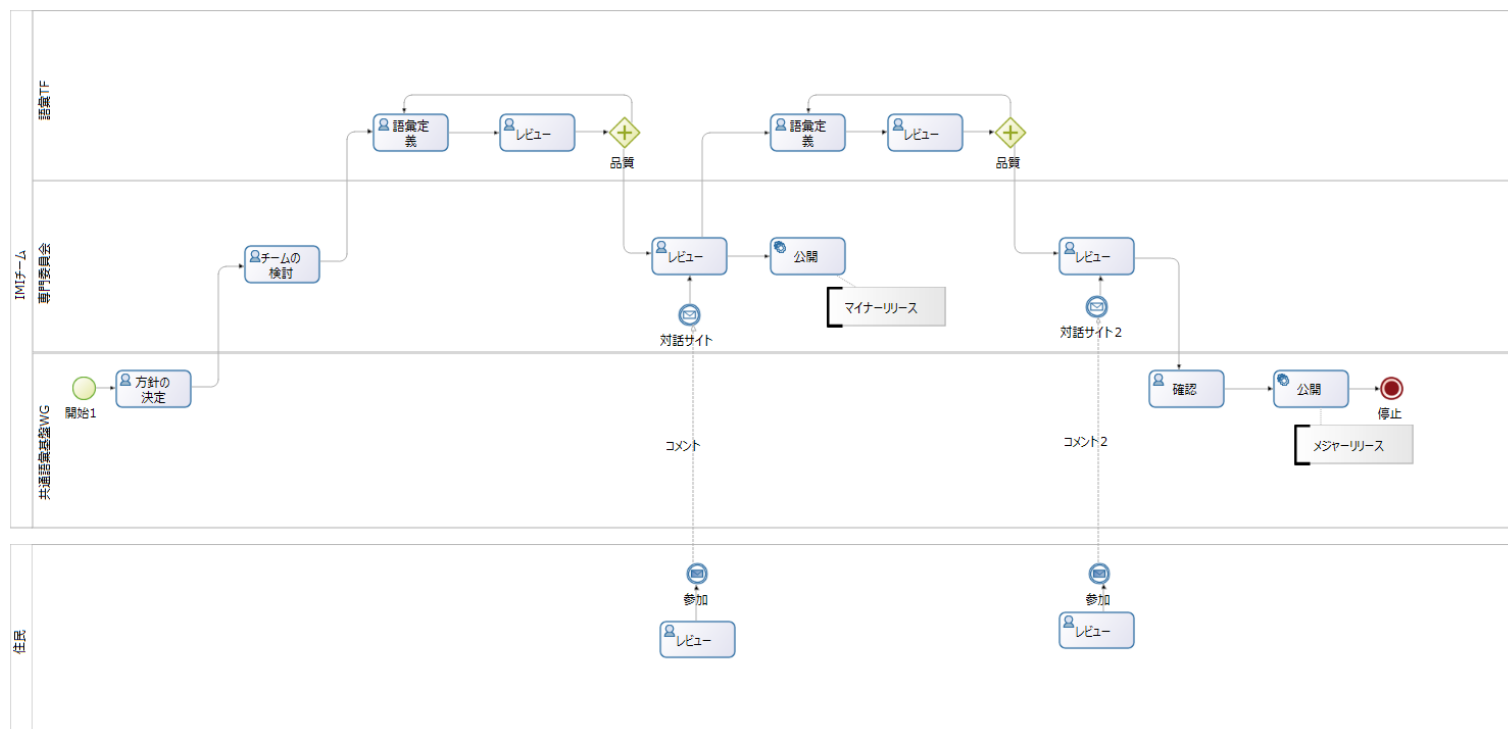


体制とプロセスの整備

- これまでの語彙の整備は、コアの中でも中核部分を整備してきたので、少人数での集中検討を実施。（14回50時間以上の議論）
- コア語彙の精査は十分に行われてきたが、各ドメイン語彙を全体に組み込んでいくプロセスが確立していない。
- 9月末の各ドメイン語彙の成果物を踏まえ、体制とプロセスの構築を図っていく。
- 今後の体制の基本要件
 - 大枠での統一性を確保すること
 - 小規模修正に柔軟に対応できること
- 制約条件
 - データ専門家が少ない



- IMIチームの専門委員会を軸に、語彙の整備と公開を推進。
- マイナーリリースは4半期に一回程度の頻度で行い、語彙の改善と追加。



4

年度内の推進事項

- これまでの成果と今後の実証のとりまとめ
- 語彙とコードとの連携
 - 国のマスターコードの取り込み
- IEPの整備
 - 氏名、住所、地点、組織の改善
 - 人、施設、設備、イベント、制度の整備
- 観光や防災などニーズの高い分野等を推進
- プロモーション
- 国際協調の推進

5